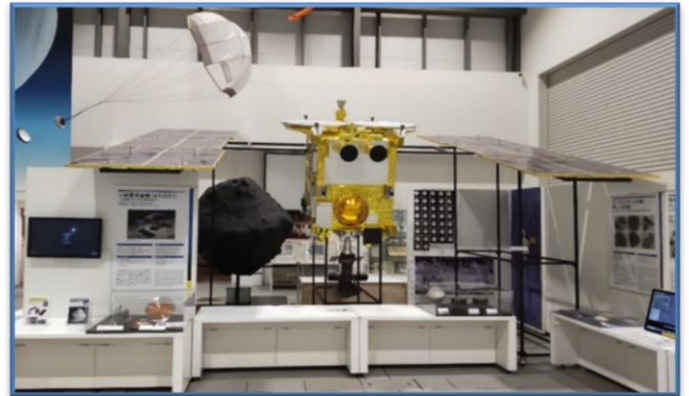


防衛問題セミナー実施概要

「日本の宇宙開発～宇宙領域の安定的な利用のために～」

近年、各国は、いわゆるゲーム・チェンジャーとなり得る先端技術を活用した兵器の開発に注力し、宇宙空間においても自国の軍事的優位性を確保するための能力を急速に開発しています。そのような中、宇宙領域における能力強化のために防衛省が行っている取組みの一環を紹介するべく、令和4年1月29日（土）に「日本の宇宙開発～宇宙領域の安定的な利用のために～」と題したオンラインセミナーを開催しました。

本セミナーでは、宇宙航空研究開発機構（JAXA）相模原キャンパス所在の宇宙科学研究所のご協力を得て、まず広報を担当されている大川拓也氏より、宇宙科学探査交流棟に展示されている年表やロケット、人工衛星の実物あるいは模型などを用いて、日本の宇宙開発の歴史を概説していただきました。視聴者アンケートでは、交流棟を見学してみたい、宇宙に興味を持ったという方が多数いらっしゃいました。



小惑星探査機はやぶさ2と小惑星リュウグウの模型

プラネタリーディフェンス（スペースガード）とは

- ・小惑星や彗星の地球衝突問題を扱う活動：スペースガード
- ・“究極の自然災害”に対して、科学的・技術的に対応
- ・1990年代初めから本格的な活動が開始
- ・日本では、1996年に日本スペースガード協会が設立（故郷部秀三氏による）
- ・2000年頃からは国連でも議論が始まり、「プラネタリー・ディフェンス（Planetary Defense）」として国際的な活動となる

「Spaceguard」という言葉

アーサー・C・クラークの
“Rendezvous with Rama”
（「宇宙のランデブー」：早川書房）で
初めて使われる。1973年刊。

Arthur C. Clarke
(1917-2008)

JAXA
PLANETARY DEFENSE
日本スペースガード協会の
マーク

吉川真准教授

2つめの講演では、防衛省航空幕僚監部防衛部事業計画第2課長の林育正1等空佐より、「航空自衛隊における宇宙状況監視（SSA）態勢整備の現状と課題」と題して、自衛隊の宇宙利用の歴史や宇宙領域における能力確保の重要性とSSAの意義、SSA態勢整備（専門部隊の編成、人材育成、装備品等の整備など）の現状と今後の課題について説明がありました。

SSA態勢整備の現況

装備品等の整備

空自SSAシステムの構成概要

宇宙設置型光学望遠鏡

SSAセンサーシステム

JAXAのSSA

米軍SSA関連

林育正1等空佐

視聴者からは「小惑星探査の経緯や衝突の影響など、大変興味深く、また映像を多用して大変分かりやすい説明でした」「国民の生命・財産を守る為には、宇宙にも目を開く必要があることがよく理解できた」「いつでもどこでも視聴できる本形態での開催は大変ありがたいです」等の感想をいただきました。

今後も防衛省の諸施策や自衛隊の活動について皆様のご理解を得られるよう、様々なテーマで、かつ開催方法等を工夫しながらセミナーを実施してまいります。